**平成30年度　第2回大阪府立図書館指定管理者評価委員会**

**日時：平成30年12月20日（木）午前10時から12時まで**

**場所：大阪府庁本館5階　議会会議室１**

**出席委員：明定委員長、江本委員、難波委員**

**（１）平成30年度中之島図書館指定管理者の業務運営状況の評価について**

事務局：所管課評価、多目的スペース稼働率について資料に基づき説明。

欠席した委員からのメール読み上げ。

（メール内容：　中之島図書館の（３）の利用者数については、自然災害での利用者減がなければ順調に推移していたのであれば、それを評価するほうよいと思う。

収支が赤字になっていることについて、イベントを多く開催しすぎると人件費がかかるためもう少し少なくし、貸し館の利用料収入を増やす営業をする等の改善があれば、バランスが良くなるように感じる。）

**全体的な評価方法について**

委員：　　昨年度の実績値を下回る目標を立てるのは不適切ではないか。継続的に数値を伸ばしていくためには、前年度実績を上回る目標値設定にすべきであり、前年度比〇%増等と設定する等、目標設定を工夫すべき。

事務局：　目標値の設定は募集時に提案のあった数値を基本として、過去の実績が提案と大きく違っているときは、過去２年の実績平均よりも良い場合は５％、悪い場合は20％高い数値を目標値としている。このため、前々年度の実績値が大幅に少ない場合は、結果的に前年度実績を下回る目標値設定となる。

今年度の目標値の設定については、第1回目の会議で議論させていただいたのでこのままにさせていただき、実績の５％増を目標値と設定することが適切か等目標値設定方法については次年度の課題として、次年度の第1回会議で議論させていただきたい。

委員：　　毎年、年度途中段階で評価しているが、評価時点以降年度末までの実績が全く評価されないことになるため、前回評価時点から１年間を評価期間にする等、評価期間の扱いについて考えてみた方がいいのではないか。

事務局：　評価方法については、他の指定管理導入施設との関係もあるため、図書館単独で評価方法を変えられるのか、制度所管課と調整し、また来年度の評価票を決める際に議論したい。

委員：　　定性的評価部分について、評価基準を作った方がいいのではないか。評価内容をみるとスタンダードができていたらA評価をつけている印象があるが、当たり前のことができているからA評価とする基準に違和感がある。

また、「あとどうすればS評価になるのか」や「何故B評価でなくAなのか」といった評価過程が見えるような評価内容にしてほしい。

事務局： 評価を判断基準について、標準的にできていればA評価、特に優れていたらS評価、マイナスポイントがあった場合にその程度に応じてB・C評価とし、A以外の評価をつけた場合は、理由を記載するようにしている。Aを基準にすることが適切かは今後検討したい。

**Ⅰ提案の履行状況に関する項目**

**（２）平等な利用を図るための具体的手法・効果**

**①平等利用を確保するための基本的方針に沿った取り組みがなされているか。**

委員：　　平等利用が確保されていない状態とはどのようなことが想定されるか

事務局：　貸室利用申し込みに関して、特定の団体を優遇したり、特定の団体の申込みを断ったりしていれば平等利用が確保できていないと言える。

**（３）利用者の増加を図るための具体的手法・効果**

**①施策に取り組んだ結果、利用者の増加に反映されているか。**

委員： 　 自然災害の影響による利用者数減であるのにB評価は適切か。また、自然災害の影響による休館・事業中止とあるが、災害による休館は何日あったのか。

図書館：　災害による休館は、地震で１日、台風で１日半の計２．５日。

委員：　　利用者減の原因は２．５日の閉館の影響のみなのか。B評価は妥当なのか。

事務局：　この項目については、定量的評価のみで評価を決定するため、理由を問わず利用者数の達成度を計算した結果、B評価となる。

**③多目的スペースの利用について、施設のコンセプトに合った活用方法を提示し、目標利用率・目標収入額のための取組みが適切に実施されているか。**

委員：　　資料２－３について、『対応が難しい』というのは分析にならないのでやめた方がよいのではないか。ウェブの改善及び個別営業に取組んだ結果目標達成とあるが、利用者がウェブか個別営業のどちらが誘因となって来たのかは、それぞれの効果を測るため、把握しておいた方がよい。いかに稼働率を上げるのか、流入経路の把握や利用者の声の分析をして取り組めばよいのでは。

**（５）施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度**

**①維持管理の内容は効果的で適切か**

委員：　　自然災害対応の遅れの具体的な内容と復旧が遅れた原因は。

図書館：　21号台風の被害で割れた窓ガラス（特殊な窓ガラス）の補修に遅れがあった。また、正面入り口の街灯の復旧が現時点で未実施となっている。

指定管理者：　窓ガラスについては、補修業者が多忙のため見積りの徴収に時間がかかった。先日、補修業者より見積りがきたため、早急に補修をすすめる。

街灯については、当初、指定管理に補修責任があるというリスク分担を把握できていなかったため対応が遅れた。また、文化財の対象であり完全復元が必要と思い込み、特定の事業者を探し見積りを依頼等した後に、実際は文化財対象ではなく類似品での対応が可能なことが分かった。そのため、現在、もう一度補修業者を選定しなおしているところ。

**Ⅲ　適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目**

**（１）収支計画の内容、適格性及び実現の程度**

**①収支計画の妥当性及び事業計画・管理体制計画との整合性は図られているか**

**③収支は計画どおり行われているか**

委員：　　収支計画の項目について、30年度赤字の見込みとあるが、7カ月終わった時点でどのようにして30年度赤字見込みと判断されたのか。

また③で収支が赤字なら、もとの収支計画も妥当でなかったといえるため、①の評価も下げないといけないのでは。

事務局：　30年度赤字見込みとした判断理由については、後程確認し連絡します。また、その結果で①についても③と連動しB評価と変更する。

**（３）安定的な運営が可能となる財政的基盤**

委員：　　代表者の交代や借入れを行ったのはいつか。決算書を見ると、8月末時点では退職金は未払金で計上していて、自己評価との整合性が図られていない。

指定管理者：　平成30年8月25日に退任をしている。自己評価の文面が間違っているため修正する。

委員：　　前年度の評価委員会では、経営状況は営業での損失を家賃収入で補填している状況だったかと思うが、今年度についても退職金を除けば経営状況は同じ状態か。代表者退任したことによる影響は出ていないか。

指定管理者：　今期については、営業利益が少し出ており、昨年度より経営状況は良くなっている。また、現在は前代表が会長となり、引継ぎを行っているため影響は出ていない。

委員：　　指定管理を任せている府の立場として、代表交代があったH30年８月以降の期の残高試算表を取り寄せて、経営状況を確認しておいた方がよい。

**（２）平成30年度中央図書館指定管理者の業務運営状況の評価について**

**Ⅰ提案の履行状況に関する項目**

**（3）利用者の増加を図るための具体的手法・効果**

**②ホール及び会議室の目標利用率・目標収入額の達成のための取組みが適切に実施されているか**

委員：　「中会議室の利用率に対して、早急な対策を求める」とあるが、具体的にはどういった対策が考えられるのか。

図書館：　中会議室は大会議室で開催する会議の控室等の附属的な部屋として利用していただくことが多く、中会議室のみでの利用は少ない。地域の会合等の中程度の会議に使用できることをアピールする等、中会議室単独での利用を増やしていただければと考えている。

委員：　　利用料金の変更ができるなら、料金を下げて利用者数を増やすことも方法の１つかもしれない。

**③駐車場の目標収入額の達成のための取組みが適切に実施されているか**

委員：　　駐車場について、周りより低額な料金設定とあるが、民業圧迫と問題にはならないのか。

事務局：　そのような声は聞いておらず、問題とは考えていない。

図書館：　適切な料金設定をしていただいていると考えている。

**（４）サービスの向上を図るための具体的手法・効果**

**①カフェスペースの運営について、図書館の利用者ニーズに対応した取組みが適切に実施されているか**

委員：　　カフェの事業者変更について、現事業者は採算が理由で撤退するのか。契約期間はどのようになっていたのか。

図書館：　様々な事情があったと聞いているが、採算性ではなく、雇用の確保が難しい等、事業継続が難しかったと聞いている。指定管理者とカフェ事業者の委託契約の期間は指定管理期間となっていたが、受託者側から撤退の申出があり、指定管理はそれを受け入れた。

指定管理者：　次の事業者の契約をまもなく行う。

委員：　　中央図書館の指定管理者を選定するにあたっては、カフェスペースの運営が重要な要素になっていたため、今回の事業者変更は当初の提案からの大きな変更点かと思う。事業者変更のプロセスについても評価に反映してよいのではないか。

事務局：　評価するタイミングの関係で、評価時点までの営業面及び事業者変更に空白の期間はなく利用者サービスの維持できると聞いているため、A評価としている。暫定的な評価と考えていただき、今後の事業者変更後の影響について注視したい。

**②ホール、会議室、エントランス及び玄関広場を活用したイベントや展示等の指定事業について適切で効果的な取組みが実施されているか**

委員：　　指定事業の回数や参加者数について、年度末時点で目標値達成とあるが、その判断根拠が示されていないと判断のしようがないため、今後は前年度事業の実績数値を参考資料として出す等してほしい。

**Ⅱさらなるサービスの向上に関する事項**

**（１）利用者満足度調査等**

委員：　　アンケートについて、票数の前年度比を記載しているが、母数となる有効回答数は年度により異なるため、構成比で前年度と比較できるようにした方がよいのではないか。また、アンケート結果がどのように所管課評価に反映されているのか、関係性を示した方がよい。

委員長：　事務局は、評価票で修正すべき箇所の修正を願います。

　　　　　　いただいた意見・提言については、事務局が整理し委員長が確認をしたうえで、委員会の指摘・提言とすることについて、一任していただいてよろしいでしょうか。

委員：　　異議なし